

にぎやかに「寄せ植え教室」



講師の佐藤隆則さん

わかりやすい説明が評判でした。



十二月十一日 大宮まち協学習部主催の「寄せ植え教室」が開かれました。宝谷の佐藤隆則さんを講師に迎え、土の入れ方や花を置く位置など教えてもらい、鉢の中を花いっぱいになりました。参加者も二十四名と多く、みなさんオリジナルの寄せ植えに大満足の様子でした。



お正月が明るく迎えられると大喜びでした。



全国都道府県対抗中学バレーボール大会出場

日南中学校3年生の青戸創志くんが、バレーボールの鳥取県選抜チームに選ばれ、12月25日から大阪市で開催される「ジュニアオリンピック全国都道府県対抗中学バレーボール大会」に出場します。

日南中学校からは2名選抜され、約4ヶ月間週末に合宿や県外遠征などで力をつけてきました。

現在、日南中学校バレーボール部には大宮から男女合わせて5名（3年生含む）在籍しています。

バレー王国大宮の復活に期待が高まります。



青戸創志くん（宝谷）



11番が青戸創志くん（宝谷）
4番が田中柊斗くん（河上）
ぼんぼるんじゃぞ！



編集・発行 大宮まちづくり協議会 総務部

《お問合せ》

大宮地域振興センター
〒689-5531

鳥取県日野郡日南町印賀 1516

TEL・FAX (0859)87-0911

Mail: skn0400@town.nichinan.tottori.jp

satoyamaoomiya@sea.chukai.ne.jp

blog: <http://blog.zige.jp/satoyamaoomiya/>

“じげブロ”よりお入りください



【編集デスク】

大宮の地に初雪が約30cm降った。大宮地域振興センター（旧大宮小学校）では、餅つきで大忙しである。美味しいお餅が数えきれないほど並べられ、発送待ちである。2016年もあと数日、みなさまにとって2017年は良い年になりますように……。来年は酉年、飛翔の年にしましょう。

（青）

No.59 大宮の朝の風景

大宮の朝の風景
そろそろ冬支度...
自然と共に営む
昔からの生活がここにある

秋の菅沢をウォーキング



きれいな紅葉も見ることができました！

11月6日(日) 大宮まちづくり協議会学習部が、ノルディックウォーク大会を開催し15名の参加者が菅沢ダム周辺の約4kmのコースを歩きました。紅葉の見ごろには少し早かったですが、この日は快晴にも恵まれ、絶好のウォーク日和になりました。コース途中の菅沢神社では、部員の中島秀さんから神社まつわる伝説を聞きました。初めて聞くという人も多く、改めてお話を聞きたいという人もいました。ゴールすると、参加賞のお餅が渡され、皆さん感激していました。



準備運動は入念に！



約4kmのコース

宝谷 男の料理教室

宝谷自治会が恒例の「男の料理教室」を開きました。

この料理教室は、ことしで9年目になる恒例イベントで、6人の男性が料理に挑戦しました。

食育推進員のアドバイスを受けながら、「サバの味噌煮」「ナスとひき肉のピリ辛炒め」「豚汁」「ハウレン草のおひたし」を作りました。毎年参加している人も多く、慣れた手つきで包丁を使っていました。

完成した料理は、招待した宝谷の女性ら4人に試食してもらいました。

宝谷自治会では、年々うまくなっている。これからも続けていきたいと話していました。



おいしい料理ができました。

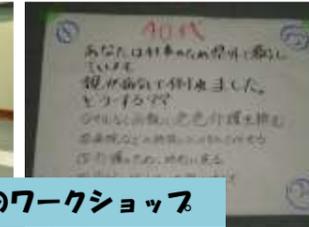
包丁さばきもお手のもの。魚も野菜も上手く調理できました。次は何に挑戦しましょうか・・・



鳥取大学ワークショップ報告会 2016



高校生とのワークショップ



大宮まち協ワークショップ



12月18日(日) 大宮地域振興センターで鳥取大学生による、今年のワークショップ報告会が開催され、学生たちが大宮の人たちと話す中で、感じたことなどをまとめて発表しました。

今年は、次の2つのワークショップとアンケート調査の結果について学生が報告しました。

報告会の様子



- 《Iターン移住者との交流ワークショップ》
- 《高校生ワークショップ》
- 《高校生の地元に対する意識調査》
- 《まち協・自治会活動認識調査》

調査内容については、最終的にレポートにまとめられ、後日大宮まち協に報告されます。報告会の後は、学生と地域の方との交流会が開かれ、とても盛り上がりました。

ジャマイカ から トマト視察

日南トマトの味は？



栽培方法に興味津々



ファームイングのスタッフとも仲良くなりました

鳥取県と姉妹都市提携を結んでいる、ジャマイカのウェストモアランド県の農業技術者5人が、印賀の株式会社ファームイングで日南トマトを視察しました。

今回の視察団は、ジャマイカの地方農業開発局や農業協会の職員らで構成され、到着するとすぐにトマトハウスで、会社経営のことや栽培技術について説明を受け、トマトの生育状況や溶液土耕の仕組みなど熱心に観察していました。

視察団からは、経営内容や防除の方法など質問があり、ファームイングの古都社長らが丁寧に一つ一つ答えて、農業技術者同士の交流を深めていました。